

プラスチックごみを減らそう

海にはプラごみがいっぱい

世界中で大量のプラスチックごみが海に流出しています。北太平洋には、海流で運ばれたプラスチックごみが集中する海域(太平洋ごみベルト)があり、その広さは日本の国土面積の約4倍。地球環境に様々な影響を及ぼす海洋プラスチック問題は深刻です。

海洋生物を危機に

海鳥や海亀、鯨などがプラスチックをエサ と間違えて食べる、体に絡まるなどして、 その生存環境が危機にさらされています。

人の健康にも影響

海中のプラスチックはやがて微細な破片(マイクロプラスチック)となり、魚などの体内に取り込まれます。食物連鎖の過程でプラスチックの有害物質が濃縮され、最終的には人間の健康被害につながる恐れがあります。

地球温暖化を加速

太陽光や水にさらされているプラスチックからは温室効果ガスのメタンが発生します。また、焼却されるときには大量の二酸化炭素が放出されます。

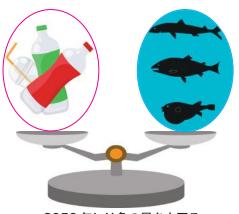
くにびきエコクラブ 松江市東津田町 くにびき学園内

松江市東津田町 1741-3 いきいきプラザ島根 くにびき学園内

http://----minkatouringring.not/group/000274.html

増え続ける海洋プラスチックごみ

大量生産でき、軽くて丈夫なプラスチックは、あらゆる場面で 便利に使われ、増加の一途をたどってきました。しかし一方で 多くは使い捨てされ、それらは最終的に海へと行き着きます。 すでに世界の海にはプラスチックごみが1億5千万トン存在 し、そこへ新たに年間8百万トン(ジャンボジェット機5万機 の重量)が流入すると考えられています。このままだと、2050 年には海洋プラスチックごみは海の魚の量を上回ると予測されています。



2050年には魚の量を上回る

資源循環、プラごみ排出ゼロ社会へ

海洋プラスチック問題は、世界や国、自治体等の対処方針のもと、事業者(提供する側)、消費者(使う側)の双方が責任を分かち合い、それぞれの立場でできることを緊急に実行することが重要です。

過剰サービスの見直し

- ■レジ袋の無料配布をしない
- ■過 剰 包 装 を し な い (二重包装、個包装・容器、 宅配過剰包装・梱包など)

提供方法の改善

■量り売りの導入・拡大 (自動化の量り売りも登場)

代替素材へ変更

- ■容器包装素材を植物由来 など生分解性のものへ
- ■商店などで紙袋の採用

リサイクル資材の利用

■現場で発生する廃プラ を資材原料に循環利用

革新的技術の開発

■プラスチックリサイクル などの画期的な技術開発



市民・事業者と連携

<政府・自治体>

■プラスチックごみに関する国家戦略や規制など 枠組み策定

<研究機関>

■研究技術開発で企業と連携

<NGO>

■海岸漂着ごみの一斉清掃 など市民に呼びかけて協働

使い捨てプラの削減

- ■レジ袋をもらわない (マイバッグを持参)
- ■使 い 捨 て フォ ー ク や ストローの使用を控える
- ■水筒携帯などによりペットボトル飲料の利用を控える
- ■過剰包装は断る
- ■量り売りや詰め替え商品 を利用する
- ■修理して繰り返し使う
- ■中古市などに出す
- ■分別・資源回収を徹底

(廃プラの発生阻止

- ■ポイ捨て、不法投棄を しない
- ■海岸や街の清掃活動